

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 研究期間 平成21年度～平成23年度
5. 課題番号 2 1 7 3 0 4 6 1
6. 研究課題名 福祉社会形成におけるボランティア受け入れ組織の競争と協調のあり方に関する研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 4 4 5 1 8 7	フリガナ タカギ ヒロユキ 高木 寛之	人間関係学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

ボランティアを受け入れる組織の、ボランティア確保の困難性に着目し、協創という視点から組織間のボランティア確保のあり方を明らかにすることが目的である。そこで、市民活動団体を支援する役割を担う中間支援組織、ボランティア確保において競合すると考えられる福祉施設への聞き取りを行い、ボランティア確保のあり方や近年のボランティアの動向について明らかにした。その結果、ボランティアの動向やボランティアで形成される市民活動団体がよりボランティア確保について困難性を感じるようになった。この内容については学会を通じ成果の発表を行った。

これらの予備調査を基に市民活動団体代表者への調査を実施した。調査では、地域ごとの住民特性の違いを考慮し政令指定都市内の対称的な2地域の市民活動団体を対象とした。団体の選定に関しては、市内中間支援組織が把握している団体リストにおいて、当該地域を活動拠点としている団体をリストアップし、そのすべてを対象とした。また、これら聞き取りを基に全市調査の実施を予定していたが、福祉社会の形成におけるボランティア組織の運営のあり方やマネジメントの方向性を理解するためには、団体への聞き取りのみではなく団体を形成する個人への調査も必要と考えた。そこで、団体代表者調査と併せて実施した団体構成員（ボランティア）へのアンケートを行った。団体構成員（ボランティア）へのアンケートでは、活動開始のきっかけや団体での自身のポジション、ボランティアや市民活動に関する自身の考えを聞き、組織運営のあり方との関係を明らかにした。

10. キーワード

- (1) ボランティア (2) 市民活動 (3) 中間支援組織
- (4) 福祉社会 (5) マネジメント (6)
- (7) (8)

(裏面に続く)